

会議結果報告書

以下のとおり会議を開催しましたので、その結果を報告いたします。

件 名		令和 8 年度 南島原市まち・ひと・しごと創生検討会議(第 1 回)
日 時		令和 8 年 8 月 7 日(金)13 時 30 分から 16 時 00 分まで
場 所		西有家庁舎 3 階大会議室
出席者	委 員	11 名
	市・事務局	財政課長、財政課政策班長、財政課政策班員(2名)、所管課(14 名)
欠席委員		4 名
会議次第		1 開 会 2 市長挨拶 3 委嘱状交付 4 会長挨拶(副市長) 5 概要説明(組織、会議等) 6 議 事 (1)南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の効果検証について - 評価指標等の実績(資料 1) (2)地方創生交付金事業の効果検証について - 交付金事業の取組実績と今後の方針(資料 2、3) 7 その他 8 閉 会
会議資料		資料 1 総合戦略評価指標(目標)一覧(令和 7 年度実績調査) 資料 2 地方創生交付金事業実施調書(令和 7 年度事業) 資料 3 地方創生交付金事業実績一覧
協議結果等		次頁以降記載のとおり

議事(1)南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の効果検証について

－ 総合戦略施策の評価指標等の実績報告

●総合戦略に基づく施策及び総合戦略全体の効果検証にあたり、施策の成果等について各委員に意見聴取するため、資料 1 の内容を説明した。

資料 1 総合戦略に記載している評価指標(基本目標、重点業績評価指標)について、目標と実績(達成状況)を一覧としてまとめた。

●資料や説明を踏まえ、各委員から意見聴取をした。

発言者	発言内容
委員	地元志向の若者を増やしていくという部分について、地元の中学生・高校生等に対して、市内に残って仕事がしたいかといった調査を行うなど、現状把握は行っているのでしょうか。
事務局	現段階では、地元の学生等に対する調査は行っておらず、状況を把握できておりません。
委員	現状をしっかりと把握し、「どうしたら残ってくれるか」ということについて子供たちと一緒に話し合ったうえで、総合戦略を策定していただければと思います。
委員	地域への定着という部分では、南島原市でしっかり教育が受けられる環境があるかという部分について心配する保護者もおりますので、小中学生に対しても調査を行い、データを持っておく必要があると思います。 また、小中高それぞれで行われているふるさと教育の現状をしっかりと把握することも非常に大事だと思います。 今後は、教育委員会とも連携しながら取り組んでいただければと思います。
事務局	いただいたご意見につきましては、生涯学習課に限らず、学校教育課とも連携しながら取り組む必要があると思っております。
委員	基本目標 1-1「そうめん出荷額」について、事業者支援は具体的にどのような支援を行っているのでしょうか。
事務局	そうめん生産者の生産量を拡大するため、設備の導入等に対する支援を行っております。具体的には、事業費の 1/2、上限 100 万円で補助をしております。 また、外国人雇用労働者については、特定技能外国人の方を雇用した場合、1 人につき 20 万円を補助する制度を設けております。 加えて、そうめん生産の大きな課題である後継者不足について、そうめん製造業を引き継ぐ事業者に対して、3 年間にわたり合計 160 万円の給付を行っているところでございます。
委員	2-1「外国人観光客数」について、データの調査場所を教えてください。 また、外国人観光客はどこの文化圏の人が多いのでしょうか。
事務局	外国人観光客の調査につきましては、宿泊施設においてどこの国の方

	が泊まれたかという調査になります。 そのうち、韓国からの観光客が半分以上を占めており、中国・台湾・香港などアジア圏の観光客が大半を占めております。
委員	基本目標 2「観光客数」の達成率が 66%となっているが、外国人観光客の増加が当該達成率に影響しているのでしょうか。 また、他の観光地等でデータの調査場所を増やしていくと、インバウンドの増加が反映されると思っておりますが、当該指標についてもデータの調査場所を教えてください。
事務局	「観光客数」の統計につきましては、観光施設・宿泊施設・飲食店などから数字を頂いて整理をしたものになっております。 また、「外国人観光客数」についても、SNS や様々な旅行会社へのセールス等を踏まえ誘客に取り組んでいるところではありますが、現状として「観光客数」の目標自体の数字は大きく下回っているため、引き続き、情報発信を含めて取り組んでいきたいと考えております。
委員	基本目標 1「企業数」について、市内にある企業の数なのか、もしくは、支援を受けた企業数なのか教えていただきたいです。
事務局	市内にある企業の数であり、各年度この数字を確保していくという数値目標です。
委員	年度ごとの目標値をみると増えたり減ったりしているが、何か背景があるのでしょうか。
事務局	事務局では把握できていないため、所管課に確認いたします。
委員	指標一覧には、「漁業所得向上率」が入っている一方、一般企業の所得向上支援といった部分は、計画には入っていないということでしょうか。
事務局	一般企業の所得向上については、策定時に設定された指標としては入っていなかったということになります。
委員	指標一覧に入っていないということは、行政として一般企業の所得向上を支援するのが難しいということでしょうか。
事務局	民間企業の所得向上となると、企業自体の給与体系も関係しますが、市としても企業の所得向上に繋げるためのプロデュース事業や PR 事業を行っております。 今後、更に良いものにしていく取組みをしていかなければならないと考えております。
委員	PR の部分について、そうめん事業における PR の効果検証は毎年どのように実施しているのでしょうか。
事務局	CM 放送の場合、事業の成果として、CM 放送後に委託業者から地域の推定視聴者数を出していただいております。
事務局	補足ですが、現在、農産品やそうめんなど個別の品目や狭い分野で PR を行っている状況ですので、他の業種への波及が高いような PR を検討しながらやっていく必要があると考えております。
委員	2-2「移住者数」について、移住者の働き方に関する市の取組みを教え

	ていただきたいです。 また、1-2「サテライトオフィス企業誘致数」について、成果があがっていない原因を教えてください。
事務局	令和 7 年度の移住者数は 98 名となっており、移住者の方々の主な働き方としては、ご自身で起業される方や、市からハローワークを紹介し、ハローワークを介して市内に就職、あるいは市外に就職されているといった状況です。市から企業を紹介するといった取り組みは行っておりません。
委員	起業しやすい環境づくりに関する施策や、九州内・県内の大学、南島原に由縁がある方への PR など、積極的な社会増に向けた動きが重要だとだと思います。
事務局	起業がしやすい環境づくりとして、起業時に設備や関連製品を導入するための支援制度はございます。 しかし、制度の周知が課題であるため、今後、起業される方が活用しやすいような形で検討していく必要があると考えております。 また、サテライトオフィス企業誘致数については、事務局では把握できていないため、所管課に確認いたします。
委員	今後、どのような方向性でスマート農業を推進していくのかについて教えてください。 また、他の自治体における、スマート農業の失敗事例は把握しているのでしょうか。
事務局	事務局では把握できていないため、所管課に確認いたします。
委員	今後、若者たちが農林課と協力し、小さい IT・DX ソリューションを細かい金額で作っていくなどの手段も含めながら、事業を進めていただければと思います。 また、南島原市は IT 分野の教育に特化していることをご認識いただき、今後の人材育成・市内への定着に取り組むためにも、教育分野に関する指標を増やしていただければと思う。
委員	4-1「対象業務ごとの削減した業務時間数」について、AI を活用した業務の効率化は全庁的に取り組んでいるものなのでしょうか。 また、具体的な事例があれば教えてください。
事務局	業務効率化については、現在 AI・RPA・ノーコードツールを導入しており、AI については、全職員が文章作成やアイデア出し、議事録作成等で使用している状況です。 また、RPA については、伝票作成業務などにおいて効果を発揮しております。引き続き DX 推進リーダー研修を通して職員への周知を行い、庁内全体で運用していくといった状況です。 加えて、ノーコードツールについては、ユニットベースというシステムを全庁的に導入しており、交付業務で使用する台帳の一元化などで効果を発揮していると考えております。

議事(2)地方創生交付金事業の効果検証について － 交付金事業の取組実績と今後の方針(交付金事業の効果検証)	
●令和 7 年度に実施した地方創生交付金事業の効果検証にあたり、事業の内容や成果等について各委員に意見聴取するため、資料2と資料3の内容を説明した。 資料2 地方創生関係交付金を活用した事業(事業費・交付額)について、各事業を開始した年度から記載し、一覧としてまとめた。 資料3 令和 7 年度地方創生推進交付金を活用した 4 事業、地方創生拠点整備交付金を活用した1事業、地方創生道整備推進交付金を活用した 1 事業、新しい地方経済・生活環境創生交付金デジタル実装型を活用した 1 事業について、事業内容や取組実績、今後の方針等をまとめた。 ●資料や説明を踏まえ、各委員から意見聴取をした。	
発言者	発言内容
委員	事業番号1「地方回帰と産業構造の変化を捉えた大規模人材還流プロジェクト(長崎移住サポートセンター負担金、地域情報の発信)」について、移住スカウトの手段は長崎移住サポートセンターにお願いするばかりではなく、積極的に移住者を増やすような市独自のコンテンツが必要ではないでしょうか。
事務局	長崎移住サポートセンターの広域連携とあわせて、移住マッチングサービス「スマウト」を活用し、農林水産業の担い手募集や南島原市に移住した方の声などを掲載し、情報発信を行っております。 しかし、担い手の応募がない状況であるため、今後、いただいたご意見について、検討が必要であると考えております。
委員	事業番号 3「若者に選ばれる」畜産産地の実現で地域を活性化するプロジェクト(家畜導入事業補助金、和牛・乳牛保留事業費補助金)」について、牛に関する事業をするのであれば、九州内の農業高校や農業大学等への制度周知・スカウトが必要であると思います。
事務局	担当課に報告しておきます。
委員	事業番号 4「南島原市原城跡世界遺産センター整備事業」について、韓国からの誘客が多いとのことですので、韓国への PR やオルレ事業との連携、観光マップづくりなど、効果を想定した行動をしていると伝わるような振興計画の推進も検討していただけないでしょうか。
事務局	韓国での営業活動を行い、原城跡や世界遺産センター、原城聖マリア観音ホールなどを絡めた周遊ルートの PR に努めているところです。今後は、ターゲットを絞った PR や関係性を踏まえた枠づくりなどの取組みを検討してまいります。
委員	原城聖マリア観音ホールについても、県内の宿泊施設・観光協会・観光案内所などへ PR・集客活動を行っているため、世界遺産センターと連携して PR に取り組むことで、より良い効果が出ると思います。
委員	事業番号 5「リモート相談窓口構築事業」について、今後、リモート相談窓口や事前申請システム以外にも、市民の方々が時間を問わず様々な手

	続きが出来るような DX 案を検討していただけないでしょうか。※後日回答 また、事業番号 6「鉄道跡地でつなぐ暮らしと地域に密着した道路ネットワークの整備事業」について、行政として道路を作って終わりではなく、自転車歩行者専用道路がどうゆう状況なのか、しっかりと把握し対処していく必要があるのではないのでしょうか。
事務局	職員による夜間の照明の状況確認を複数回行い、常時きれいな道路にできるよう、清掃についても道路パトロール員を雇用するなど様々な手段で維持管理に努めているところです。 今後も、皆さまからご意見等をいただきながら、より良い道路づくりに取り組んでまいります。
委員	事業番号 4「南島原市原城跡世界遺産センター整備事業」について、KPI が未達成でも、交付金の交付決定には影響しないのでしょうか。
事務局	KPI の達成・未達成に関わらず、事業費の 1/2 が国の交付金として支給されております。
委員	「世界遺産センターにおける新規雇用者数」については、現時点でも想定が可能だと思うのですが、現状、全く決まっていないということでしょうか。
事務局	ハード事業の KPI については、開業をしないことには効果が現れないことが多いため、開業後、3～5 年間にわたり、実際にどのような効果があったかについて数字を追い、国に対して成果を報告することとなっております。
委員	建物を作るのであれば、その効果・実績を市民へしっかりと伝える必要があると思います。
委員	事業番号 2「まちの変化を力にした地域内外の交流拡大・地域の賑わい創出プロジェクト(自転車歩行者専用道路ソフト事業、長崎デスティネーションキャンペーン負担金)」の指標「レンタサイクルの年間貸し出し台数」について、貸出場所及び利用者を具体的に教えていただきたいです。 また、指標「観光消費額」について、指標の数値はレンタサイクルに絡めたデータのとり方なののでしょうか。ソフト面のコンテンツ作りを行ったうえで、レンタサイクルや自転車歩行者専用道路の活用による効果であることが具体的に分かる指標が必要だと思います。
事務局	令和 7 年度は、原城温泉真砂・有馬キリシタン遺産記念館・道の駅ひまわりにおいて、レンタサイクルの貸し出しを行っております。 実績のうち、大半が原城温泉真砂における利用であり、自転車歩行者専用道路の活用推進を図っているものの、原城周辺を周遊されているというケースが多い状況であると考えております。今後もレンタサイクルのステーションを増やしていきながら、自転車を利用していただける環境づくりに努めてまいります。

	また、指標「観光消費額」については、市全体の観光消費額の設定となっており、サイクルツーリズムが観光消費額の向上に直結するような設定にはなっていないため、ソフト面のコンテンツ作りも含め、様々なご意見いただきながら進めていきたいと思っております。
委員	ソフト面のコンテンツ作りについて、島原湘南高校がサイクルツーリズム活性化等のふるさと学習を行っているため、今後、教育分野と連携しながら進めていくことも検討していただけないでしょうか。
事務局	これまでに島原湘南高校のサイクリング班と共同で、自転車及び自転車歩行者専用道路を利用していただけるとようなイベント・ツアーを実施しております。今年度についても協議を進めており、今後もアイデアをいただきながら、一緒に取り組んでいければと考えております。
委員	ソフト面のコンテンツ作りについて、高校生たちにアプリ等の開発・Web 展開をお願いすることで、高校生たちが南島原市の情報を発信する機会に繋がると思うので、そういった教育も展開していただければと思います。

地方創生交付金事業の効果検証結果

各事業の事業効果・今後の方向性は、所管課の評価・意向のとおりとする。

その他

意見等なし

閉会